

クリ「筑波」における落葉前剪定が開花や収穫へ及ぼす影響

剪定を1～2割程度落葉した12月に行っても、開花や収量に影響はない

背景・目的

- クリの剪定は、冬季の全落葉後に行うことが一般的です。しかし、近年、温暖化等の影響により落葉が遅いため、年明け後からの剪定となり、その他の管理作業との競合で剪定が不十分となる傾向にあります。
- 本県の主要品種である「筑波」について、落葉前の剪定が満開期、収穫盛期、収量に及ぼす影響について明らかにしました。

成果の内容

- 12月剪定時は1～2割程度落葉した状態で、葉色はまだ緑でした。2月剪定時は全落葉していました（表1）。
- 12月剪定及び2月剪定それぞれの満開期及び収穫盛期は、概ね同時期でした（表1）。
- 10a当たり換算収量は、剪定時期の違いによる差はありませんでした（表2）。

表1：剪定時期の違いが開花や収穫に及ぼす影響

年度	試験区	剪定日	剪定時の落葉状況	満開期		収穫盛期
				雌花 ^z	雄花 ^y	
2021年	12月剪定区	12月8日	1～2割落葉	-	-	9月22日
	2月剪定区	2月3日	全落葉	-	-	9月22日
2022年	12月剪定区	12月8日	1割落葉	5月24日	5月31日	9月28日
	2月剪定区	2月7日	全落葉	5月23日	5月31日	9月29日
2023年	12月剪定区	12月16日	2割落葉	5月26日	5月30日	10月4日
	2月剪定区	2月26日	全落葉	5月25日	5月30日	10月4日

z：3小花とも満開の雌花が80%に達した日

y：80%雄花穂が満開になった日

表2：剪定時期の違いが収量に及ぼす影響

年度	試験区	樹冠面積 ^z (m ²)	結果母枝数 ^y (本/m ²)	収量 ^x (kg/10a)
2021年	12月剪定区	33.9	4.0	391
	2月剪定区	44.6	3.9	398
	有意性	-	-	n.s.
2022年	12月剪定区	31.1	3.3	262
	2月剪定区	35.7	3.1	331
	有意性	-	-	n.s.
2023年	12月剪定区	35.7	3.5	140
	2月剪定区	28.3	3.5	157
	有意性	-	-	n.s.

z：東西(m)×南北(m)×0.8から算出（剪定後測定）

y：結果母枝数は剪定時に1m²あたり3～4本に調整

x：樹冠面積と1樹収量から算出， w：t検定により、n.s.は有意差なし



剪定前



剪定後

参考：12月剪定前後の樹姿

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 普及対象地域・面積 県内くり農家及び剪定班（西諸県、東臼杵南部、西臼杵）254ha

留意点

- 試験場内（火山灰土壌）の開心自然形（2021時点：樹齢20年生）3樹を調査した結果です。
- 12月は葉が多く残っており結果枝が見えにくいため、剪定時の見落としに注意が必要です。

関連研究成果カード：2024年度整理番号31、関連事業名：気候変動の影響評価と適応のための果樹栽培技術確立(県単)

研究期間：2019～2023年度